

I 実践

1 本校の人権教育の目標

(1) 経営方針

ア 人権に対する理解と認識を高め、各教科、道徳、特別活動など学校生活全体の中で、人間的なふれあいを通しての平等や人権尊重の精神の育成を目指す。

イ 地域、学校及び生徒の実態を把握して人間関係の改善を図り、言語活動を整えることで意欲的に生活や学習できる集団づくりを目指す。

(2) 施策

ア 全職員の共通理解の下に指導体制を確立する。

イ 生徒の実態や悩みなどを日記指導・教育相談や日々の観察等を通して的確に把握し、個に応じた指導をする。

ウ 職場体験学習・文化祭など各種行事や活動を通して、感謝の心や思いやりの心を育てる。

エ 授業参観、保護者会、家庭訪問、学年通信等を通して、保護者への理解・啓発を促す。

2 実践内容

(1) あいさつ運動

毎週木曜日の朝に生活委員、生徒会本部役員、部活動有志が中心となり、登校する生徒に元気にあいさつをする。11月には十王駅前で近隣の中学校・小学校・高等学校・幼稚園・地域の方が連携した「さわやかマナーアップ運動」を実施し地域全体で思いやりの心を育てる活動に取り組んでいる。また、生徒会本部役員が学区の小学校を訪れ、小学生と一緒にあいさつ運動を行っている。3学期からは3年生の有志が加わりあいさつ運動を行っている。このあいさつ運動はあいさつの大切さを知り、心のこもったよいあいさつができるようにするとともに、生徒同士、教師と生徒、保護者と生徒があいさつすることによって心を通わせ、好ましい人間関係を作ることができるようにすることをねらいとして行っている。



【資料1 あいさつ運動】



【資料2 マナーアップ運動】



【資料3 小中連携】

(2) 全校での取り組み

ア 生活アンケートの実施

毎月生活アンケートを実施し、気になる生徒には声をかけたり二者面談を実施したりするなどして、積極的な生徒理解に努めている。

イ QUTテストの実施

学級集団全体の状態をデータとして把握するとともに、特別に支援を必要とする生徒を把握するために1、2年生が5、11月に実施している。5月の実施結果をもとに、分析を行い実行する。再び11月に実施し、前回と比較し、人間関係の改善状況を把握し、次の改善につなげた。

ウ 山の尾祭体験学習での取り組み

文化祭で地域の方を講師として招き、様々な体験活動を行った。

地域の方々との直接の交流の場を設定したことや、その後のお礼状の作成などを通し、温かみのある人間関係を育んだ。

エ 道徳・学級活動での取り組み



【資料4 体験学習】

- (ア) 道徳・学級の実態に合わせて取り上げた資料や身近に考えさせられる題材を活用し、意見交換を通して自分の考えを再構築するような授業展開を心掛けている。
- (イ) 学級活動・構成的エンカウンターやロールプレイング、アンガーマネジメントの実践を活用して楽しく活動しながら相手の立場を考え、自分の行動を見直せるような授業構成を心掛けている。

(3) 学年での取り組み

ア 1学年で人権作文を通しての啓発

夏休みの課題として、各学級で人権作文を課題とした。夏休みのしおりにも明記し、各家庭で「人権の大切さ」について子どもと一緒に考える機会とした。

イ 2学年での鶴鳥舞の実施

学年全体での鶴鳥舞を通して、仲間との協調や郷土への理解・誇りなどの感情を育てた。また、1学年への部活動単位の継承から信頼関係の醸成や思いやりの心を育んだ。



【資料5 鶴鳥舞練習】



【資料6 鶴鳥舞披露】

ウ 3学年での社会科公民的分野での授業実践

単元「日本国憲法と人権」の第2時「人権の歴史」にて世界の人権に関する歴史を概観し、人権を知識・理解面から整理した。教材としてICTを活用し、ユナイテッドフォーヒューマンライツによる動画「人権の物語」を導入に利用し、人権の歴史に関する生徒の興味・関心を引くことができた。

(4) 外部講師による講演会

ア メディア研修会の実施

茨城県の方を講師に招き、携帯電話、スマートフォン等の使い方や危険性について学んだ。

イ 薬物乱用防止教室の実施

高萩ライオンズクラブの方を講師に招き薬物の恐ろしさと薬物を勧められた時の断り方などを学んだ。

ウ いのちの教育

「おおたしろクリニック」の太田代紀子先生を講師に招き、講演会を行った。3年生を対象として「性感染症についての理解と予防法」、「異性とのよい関わり方」について学んだ。

(4) 地域の行事への参加

ア 「ひたち秋まつり」「十王まつり」「十王地区運動会」への参加

2, 3年生が十王鶴鳥舞を披露している。「十王まつり」では生徒の有志が神輿担ぎに参加し地域の様々に世代と交流することができた。

イ ボランティア委員による敬老会へのボランティア活動

十王地区敬老会にボランティア委員の有志が参加し、付き添いや誘導などを行い、地域の高齢者の方々と交流を深めるとともに、人の役に立つことで感謝される経験をすることができた。

3 成果

- ・あいさつ運動では、当日だけにとまらず普段からの全職員による生徒へのあいさつや声掛けを行うことにより「一人一人かけがえのない存在であり、尊重し合うことの大切さ」について職員を含め全校生徒で確認することができた。
- ・体験活動や学校行事等を通して、同学年との交流だけでなく、上級・下級学年や地域の人たちとの交流が図られ、思いやりや優しさといった人権意識を醸成することができた。

II 今後の課題

生徒が身に付けた互いに信頼し、思いやりをもって生活する態度をさらに確かなものにするため、各教科・特別活動での授業実践や地域との交流を継続していきたい。